

## 第67回埼玉県美術展覧会審査評

### 【第6部 写真】

審査主任 かどくら すずむ 門倉 進

今年度の応募総数は1,305点で、入選作品453点、入選率は34.7%の結果となりました。

鑑査及び審査については、これから先を見据えた作品を選考することが審査員に課せられた使命のような気がします。これらを踏まえて審査員9名の意思確認をし、作者の方々が一年間真剣勝負で作り上げた作品であるため、慎重を期し鑑査及び審査を行い、入賞候補は審査員全員で厳正な討議の上決定しました。

作品はデジタルカメラの進化に伴い、新しい写真表現が生まれています。それを使うことによって表現の幅や深さが増大します。

応募作品は、ネイチャー、動植物、生活空間、人物、海外と多種多様です。

その中で入賞者は、女性の活躍が目立ち7名の方が受賞しています。

今後は写真の基本である、ポジション、アングル、フレーミング、シャッターチャンスを考え、表現力の豊かな完成度の高い写真表現に挑戦してください。

#### ・埼玉県知事賞

ざんしょう  
「残照」

いしかわ たみお  
石川 民男

光を強調し、画面のディテールを極限まで落とした3枚組です。

作者は光に対して独自のこだわりを持ち、ドラマを感じてシャッターを切り独特な世界観を表現しています。3枚とも隅々までしっかりとした解像感のある写真に仕上がっています。作者の力量を感じました。

・埼玉県議会議長賞

「<sup>かえ</sup><sup>みち</sup>帰り道」

<sup>おない</sup><sup>いさお</sup>尾内 勲

遠近感を画面に取り込んで帰り道を表現し、主題を的確につかんだ無駄のない安定感のある写真に仕上がっています。

子供達の楽しかった会話が聞こえてくるようです。作者の温かい眼差しが感じられます。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「<sup>ひかり</sup>光のシャワー」

<sup>うだ</sup><sup>ようこ</sup>宇田 陽子

水しぶきが光にあたり少女の姿がスポットライトを浴びたヒロインを演じているようで、この水しぶきが少女の夢を増幅しているように見えます。綺麗な映像美で優しい雰囲気を作りだしています。作者の感性が見事に発揮された映像です。

・埼玉県美術家協会賞

「<sup>きおく</sup><sup>もり</sup>記憶の森」

<sup>すみ</sup><sup>ゆうこ</sup>住 由子

不思議な雰囲気の世界に惹かれます。子供時代の様々な記憶を呼び起こした、まるで夢の世界の断片のようです。独特な世界観が表現されたこの作品には洗練された魅力があります。少女の存在がさらなる物語性をかき立てるようです。

・埼玉県美術家協会賞

「<sup>ひかり</sup>光の<sup>もと</sup>元へ」      <sup>たかはし</sup>高橋 <sup>てるじ</sup>照治

ガード下と思われる、全体的に暗いフレーミングの中で、明るく輝く光の部分、明暗のバランスが程よい割合で占められています。

そして光に向かって歩く二人の後ろ姿を配置したことで、画面全体を引き締めてその光が画面に奥行を与えています。空間構成が見事に表現されていると思います。

・埼玉県美術家協会賞

「ゆらぎ」      <sup>ねもと</sup>根本 <sup>やえこ</sup>八重子

作者のねらいと見る側の印象が必ずしも同じとは限らないと思います。この作品は時の経過がゆるやかに流れ、その空気感が伝わって一枚一枚の作品に余韻が感じられます。そのどれもが絡み合って想像力をかき立てるシュールな世界を演出しています。この感じが「ゆらぎ」なのでしょうか。これがこの作品の魅力のような気がします。

・埼玉県美術家協会賞

「<sup>せいじゃく</sup>静寂」      <sup>の</sup>もと <sup>まさひろ</sup>野本 昌寛

凜と静まりかえった世界に輝く光の輪、森の妖精のいたずらか？それを囲むように木々の描写。中心の写真に強烈なインパクトがあり、アンダーな世界からゆっくりと自然音が流れ、何を暗示しているのか想像力が膨らみます。独自の感性でとらえた秀作です。

・さいたま市長賞

<sup>うらがわ</sup>  
「裏側」

<sup>やはぎ</sup> <sup>すずな</sup>  
矢作 涼菜

彼女は何を見たのか、見たかったのか。入り込めない社会を恐る恐る覗き込もうとしたのでしょうか。大人の社会への興味と苛立ちが交鎖しています。ビールの空き瓶から昼の裏側が見えたのでしょうか。換気扇から落ちてきた油によって汚れたポスターに、大人社会の無神経さへの批判が込められているようです。

高校卒業の間に撮影した作品と聞きました。成人と少女との狭間の中、大人では材料にできないものを組み入れた素直さに脱帽です。

・さいたま市教育委員会教育長賞

<sup>ねが</sup>  
「願い」

<sup>いちのせ</sup> <sup>ふさお</sup>  
一瀬 富左男

シンプルさの中にも引き立てたいものがしっかりと感じ取れます。

女性の祈る姿が自然で、切なさがにじみでた<sup>せいひつ</sup>静謐な願いが心地よく伝わり、包み込まれるようで、見る側の感情に静かに訴えるイメージに仕上がっています。作者も一緒に祈っている姿が想像できるようです。

・時事通信社賞

「<sup>えんか</sup>演歌が<sup>き</sup>聞こえない」      <sup>あおき</sup>青木 <sup>よしお</sup>義雄

作品と題名が共鳴和音となりエレジーとなって聞こえて来るようです。もっと他の写真が見たいという気持ちになります。かつて賑わった飲み屋街の路地裏、酔っ払いが肩組み合って流行り歌を唄い、また隣の店の<sup>のれん</sup>暖簾を潜って行くような光景が見えます。作者の意図を題名でそれを見せてくれたような気がします。題名とした写真は<sup>かいこかん</sup>懐古館の写真でしょうが、敢えて玄関マットにいる猫のカットを赤で際立たせ配置したことによって、他の写真と繋ぎ合わせています。

・FM NACK5 賞

「<sup>きた</sup>北の<sup>たびびと</sup>旅人」      <sup>とよだ</sup>豊田 <sup>かずよ</sup>和代

傷心の旅か、<sup>よいやみ</sup>宵闇迫り、雨に濡れて反射する路面、店の灯りがさみしくともる。今宵の宿はどこに。見る者を引き込むようなリアリティー溢れる描写が素晴らしいです。画面の向こうに確かなストーリーの存在を実感します。作者のセンスの良さを感じます。

・朝日新聞社賞

「<sup>ふおん</sup>不<sup>まち</sup>穏な街」      <sup>たむら</sup>田村 <sup>まゆみ</sup>真由美

作者は猫、夕暮れ時、火災跡の3枚組で不穏な街として、まとめています。特に2枚目の夕暮れ時の映像では、電線をうまく配置して、今にも何かが起こりそうな気配が感じられます。そして3枚目では、家も車も焼けただれた火災跡の映像を配置したことで、さらに不穏さが強調されています。作者の描写感覚には説得力があります。

・埼玉県美術家協会会長賞

「<sup>ふゆお</sup>冬降りる」                      <sup>やました</sup>山下    <sup>さとこ</sup>智子

僅かに紅葉が残る山里に、静かに冬が到来し、まさに冬景色に様変わりしてゆく感じが感じられます。そして降雪により、全体が霞掛かったような映像、古典的な手法でありながら女性の目線で優しい雰囲気仕上がった作品です。

・高田誠記念賞

「<sup>ゆうば</sup>夕映え」                      <sup>おおさわ</sup>大澤    <sup>あきよし</sup>秋良

強い西日が当たる、建物の壁面、自転車、中央の人物と思われる背中に当たる光は、何かを物語る印象深い写真です。上下2枚の写真の見せ方が大胆かつ斬新で、ドラマチックな空間使いの妙に圧倒されます。